扇山の昆虫

奥谷禎一

1953年8月18日、兵庫生物学会の催しとして扇山の採集会があり、私はそれに参加させて頂く機会を得た。扇山は海抜1300mで、兵庫県では氷ノ山に次ぐ高山であるが、今日まで昆虫採集に登つた人はいないらしい。文献にも氷ノ山は出てくるが、扇山はなかなか見当らない。したがつて、ロクな所でないのだろうと思いながら行つた次第である。

ところが、驚くべき好採集地であるのに目を見張つた。途中、開拓団の入居している所まで、わずかに数本のモミを見ただけで、全く針葉樹がなく、頂上附近は1500町歩の大ブナ林である。関西以西唯一の大森林だということである。うち500町歩は開拓の計画であると聞いたが、残りの1000町歩は、天然記念物として保護したいと思う。

さて、採集し得た昆虫であるが、あいにくシーズンが遅く、総計70頭ほどしか採集できず、しかも小さな不明種がほとんどであるので、私の手におえるものはほとんどなかつた。そのうちから、2、3興味をひいた問題を記してみよう。

特に興味を感じたのはセミの Fauna である。普通の山では下の方ではアブラゼミ・ニイニイなどで、次にミンミンが相当高い所まで分布し、ミンミンが減つた頃にはエゾゼミがきこえ、終りにコエゾ・エゾハルゼミなどが聞けるのである。しかし、扇山では、ミンミンの次にコエゾが分布し、エゾゼミをとばしているのは面白い。これは恐らくエゾが針葉樹を好み、その針葉樹がないためだろうと思われる。となりの高山氷ノ山では、500～700mの熊次村でエゾがかなり鳴いている。それから上の1000mあたりのブナ林ではコエゾ・エゾハルがいる。もちろん扇山の500～700mの所で、じつと耳をすますと、遠くのアカマツの林からエゾがないているのがきこえてくるが、とにかく扇山自身にはいないようだ。またエゾハルは、関東の山では9月までいるから、8月中旬ではまだ当然いると思われるのに聞こえなかつたのは、やはりいないのかも知れない。エゾとコエゾは鳴き声が非常に似ているので、何度も耳をうたがつたが、遂にエゾは聞けなかつた。

開拓地附近はブナや他の濶葉樹が切り倒してあり、これより、カミキリを数種得た。ヒゲナガゴマフカミキリ Apalimna liturata は大山でかつて採集したと同じように生棲し、ウスイロトラカミキリ Xylotrechus cuneipennis, ニイジマトラカミキリ Xylotrechus emaciatusなどが産卵に来ていた。また、ルリボシカミキリ Rosatia batesi の美しい姿も見られ、セダカカミキリ Echthistatus grossus が面白い姿を見せていた。私の専門のハバチ類では、わずか5種で、Tenthredella viridatrix, Propodea fentoni, Aneugmus kiotonis?, キイロハバチ Waldhaimia japonica 、他不明1種であつた。これはシーズンの関係で少いので、恐らく相当の種が分布していることであろう。その他日本のカで最も大きいトワダオオカ Megarhinus towadensis を得たが、恐らく兵庫県下では最初の記録であろう。何分、前述の如くシーズンがわるく、目録にもならないので、扇山の昆虫について概観してみた。今後機会を見て充分の採集を試みたい。

なお、カミキリの学名、和名は「水戸野(1940): 日本産鞘翅目分類目録天牛科」によつた。

(p. 205から)

ヅク、ネバリモ、フクロノリ、カゴメノリ、ハバモドキ、西洋ハバノリ、エゾブクロ、カヤモノリ、イシゲ、ケウルシグサ、ウルシグサ、アミジグサ、ウミウチワ、オキナウチワ、ツルモ、ワカメ、ヒジキ、ヨレモク、イソモク、アカモク、ウミトラノオ、ノコギリモク、ヤツマタモク。

紅藻類　ウシケノリ、アサクサノリ、ベニマダラ、マクサ、ユイキリ、ムカデノリ、ツルツル、コメノリ、マツノリ、ヒビロウド、カニノテ、ビリヒバ、イシゴロモ、フクロフノリ、ハナフノリ、イバラノリ、ヒメユカリ、イソダンツウ、オゴノリ、ワツナギソウ、イギス、エゴノリ、イトグサ、ダジア、ミツデソゾ、フジマツモ。

(5) むすび

吾々教職にあるものが自由に研究に使える季節は夏期休暇であるが、夏期に於て、海藻採集に比較的満足な結果を得る為には、県下では日本海岸の香住、諸寄等の諸海岸が最適かと考える。然し、沼島、鳴門海峡の絶景を控えた当地方は、採集以外にも種々の利得があり、採集季節を夏も少し早い目にすれば可なりの収穫のある事は申す迄もない。